

1. 開会 (原部長)	みなさんこんにちは。委員の皆様には、お忙しい中に、本協議会に参加いただき、ありがとうございます。この小中規模適正化協議会は、昨年度から開催しておりまして、昨年度から通算すると第5回目となります。本年度は、第2回目となりますけれども、只今より伊万里市小中学校規模適正化協議会を開催させていただきます。委員の皆様、よろしく願います。この次に、教育長の方から、一言ご挨拶を申し上げます。
2. 教育長あいさつ	皆様こんにちは。今日はお忙しい中に、伊万里市立小中学校規模適正化協議会に参加いただきまして誠にありがとうございます。本年度の1回目が7月23日に行われたかと思えます。早いもので数か月が経ち、今日は2回目になります。前回は、小中一貫校について検証していただいて、さらに統廃合等による新たな市内の学校の規模適正化について計画し審議をいただいたところです。小中一貫校につきましては、本年度4月から全市の小中一貫校を開校した多久市の取り組みの状況を前回は紹介していただきました。伊万里市でもこの協議会で小中一貫校として開校することをする方針をしていただきました南波多小中学校、滝野小中学校がございしますが、この2校だけではなく、市全体の今後の学校規模適正化の取り組みとしても大いに参考になったところです。 また、新たな青写真として審議していただきたいものとしまして、複式学級を抱え将来的にも解消の見込みが少ない波多津東小学校と波多津小学校との統合等についての審議もしていただいていたかと思えます。今日は、こうした複式学級を抱える学校規模の解消を図るうえでの審議とともに市全体の規模適正化についてご審議等をしていただくこととなります。委員の皆様には、本市の児童生徒が、これからの社会の中で、生きる力を育み、確かな学力を身につけるには、どのようにしたらよいか等を検討していただいて、よりよい学校づくりとなりますようにご審議をお願いしたいと思います。今日は、どうぞよろしくお願いしたいと思います。
3. 報告及び確認 (朝長学校教育課長)	ありがとうございます。報告及び確認をさせていただきたいと思えます。 まず、今日の議案の方を見ていただきたいと思えます。最初に議案の流れ、規模適正化協議会の流れ、今後の案、次に前回も委員の皆様からの希望がありました、それぞれ各学校の様子、いつ頃設立されているのか等を載せているところでございます。次に、各学校、幼稚園の面積、建設年度等、また小規模化に起因する課題ということで、メリット、デメリットという参考資料を載せております。それから、平成17年度から31年度にわたった全校生徒の様子、昭和57年から平成36年までの全校の児童生徒の数と前回までの動きとして話し合っていた分で、ステージ1ということで、今後の学校づくりの方向性を一覧表にしたもの、そして、前回の議事録を配付させていただいておりますので、またこの内容については、会長の泉先生からまた確認等をしていただけるものを思っておりますので、よろしくお願い致します。では、協議に入ることとなりますけれども、この段階で泉会長さんの方にマイクをお渡しいたします。
4. 協議 (泉会長)	今日は、大変ご苦労さまでした。今日はよろしくお願い致します。 お手元の今日の資料の報告及び確認というところまで、課長さんの方で、進めていただきました。4の協議から、いよいよ私共の大きな課題であります小中学校の規模適正化のための一番大事な議論に入るわけですが、皆さんと一緒にもう1回確認をしておきたいと思えます。と言いますのは、中間答申の動き(4ページ下から4行目)についてお話がありました。平成25年10月継続審議というのが今日のことだと思います。その後、26年1月に継続審議と最終答申案の検討をしていただきたい。そして、26年の2月には、最終答申をお願いしたいというような、計画になっております。ですから、この会は、あと2回、今年度中に何らかの結論を出すという方向であることを皆さんと一緒に理解しておきたいと思えます。それが、中間報告後の今後の動きについてです。それから、規模適正化のための討論をする上で、もう1回きちんと確認をしておきたいと思うことがありますので、案内をさせていただきます。 先程、ご紹介がありました前回の会議録をご覧ください。会議録のこれは、表紙から3枚目に、朝長学校教育課長さんの話がありました。その話の①伊万里市として望ましい学級規模は、一定の児童生徒数を確保をすれば、小中学校とも1学級の児童生徒は、30人程度が望ましい、と考える。②市が目指す現実的な学校規模は、小学校では複式学級にならない規模で、1学年1学級以上、クラスとして20人程度、理想としては30人だけれども、現実的には20人程度という考え方。全校では、120人程度が現実的な学級数だと考えている、と答えてあります。中学校では、1学年2学級以上、1学級20人程度、全校で下限として120人程度が現実的な学校規模だとこのように考え方を書いてございますので、ここは皆さんとともに共通理解をしておきたいと思えます。それから、次ページに原部長さんの説明があります。「1年生を含まない時、2つの学年の児童生徒数が16人までですと、複式になる。2学年が16人までですと、複式になる。1年生が、含まれる場合は、1年生を含む1の学年で8人を超えない16人、8人という数字をもう一度きちんと確認をしておきたいと思えます。

それから、他の学校では、どうかといいますと、他の学校のことについて書いてあります。牧島小学校では、2クラスずついきますと、複式にはまずなりませんとか、大川内小学校まずなりませんとか、波多津小学校は、今のところ複式ではございませんけれども、来年度8人、その翌年度は7人入学してまいります。そうなれば、3年後の2、3年で、15人となり16人を超えませんが、複式になります。このことを討論に入る前に皆さんと共にもう一度、確認をしておきたいと思いましたが、時間をとらせていただきました。いよいよ討論に入るわけですが、もう一度、今日の資料を皆さんと共に見直していきたいと思えます。資料の7ページをご覧ください。そこに学校別施設現況表に建設年度というのがあります。その中に幼稚園、小学校、中学校、ずっとみていきますと波多津小学校は、昭和30年、31年と建設とか、大川内小学校は、32年等、30年代をあげてみますと、松浦小学校は35年、二里小学校は39年となります。

これを見ていただきますと、学校の設立の建築の年月日、学校の古さというのを私たちは、見る事が出来るんじゃないかと思えますので、このところ確認とさせていただきます。それから9ページですが、伊万里小学校と啓成中学校は、一緒になっています。その下に牧島小学校でございます。このところ、みなさんと一緒に考えていきましょう。はじめの3番は、中学校なんです。例えば、今年の4年生は5人ですが、両方の学年をみますと、それぞれ25人とか、28人とかになりまして、複式にはなりません。そういうように、ずっと見ていっていただきたいと思えます。左の方から、左の欄の方から、ずっと子ども達は、卒業していくわけですが、それに代わって右の方から生徒が入ってくるというような読み取りをしなくちゃいけませんので、そういうところを確認しておきたいと思えます。そうしますと、今、牧島小学校は両方の学年を足しても、16人を下ることはないですから、原部長さんの説明のように、牧島小学校は、複式学級になることはない、というような説明になろうかと思えます。それでは、そういうように見てまして、波多津小学校を見てください。波多津小学校は26年に8人、27年に7人、入ってきますが、その時は、1年生と2年生で8人以上ですから、この時は、複式にはならない。ところが、それが、一方が3年生になった時には、複式になるということですから、この15人の子ども達は、28年度に複式になる、というような表の読み方が必要ですので、このところを表の読み方を確認をしておきたいと思えます。そういうことで、資料を見ていく段階で、今後、伊万里市の小中学校の児童生徒が、動いていくだろうか、ということと一緒に確認させていただいたということです。そうしていきますと、今、小規模校と考えられるのは、牧島小学校、大川内小学校、波多津小学校、波多津東小学校、それから滝野小学校、山代西小学校というのが、あがってくるのではないかと思います。

中学校については、小規模校というのは、南波多中学校と滝野中学校でございますが、その2校については、小中一貫校にしようということで結論づけていますので、中学校の場合は、今のところ考える必要はないかなと思ったりしているところ。ですから、今までの基礎的な理解、資料を見ていただいて、今日の本題である小中学校規模適正化のための具体的な方策ということで、どういう学校を適正と考えるかの理解をお願いしたいと思っております。何か、私の話、ちょっとどよかったかも知れませんが、基本的なことをきちんと抑えておきたいと思いましたが、説明させていただきました。

A委員

内容的な発言ではないのですが、この会が発足した時に市長部局の方が入っていらっしやったのですが、その後、入られていないのですが、それがどうしてかということと、もう一つは、前回の多久の先生の話では、何か財政上の問題がいろいろあって、教育委員会の考え方と市の財政状況とかかわりがあって、こういう形をとったというお話がありましたので、市長部局の方がいらっしやなくていいのかと、そんな感じもします。外れられた理由か何かあれば、こちらは、市教委関係は、それぞれの考え方でいいからという参考意見をとりということであれば、それはそれで結構で確認だけです。

朝長学校教育課長

昨年度の会議の中に、市長部局の方が入っていらっしやいました。昨年一年間の動きの中で、この協議会の性格からすると、教育委員会と同じ立場で動いていくものから、ただ協議会の委員として情報等の提供については、委員としていかも知れないけれども、協議会の内容をさらに、市当局として相談をしていくという方向ですから、本年度につきましては、この協議会の意見を基に、市長部局と教育委員会と協議をしていくという話し合いの流れになったということで理解をさせていただきたいと思えます。それから、先程おっしゃったように多久の方でも、市長部局とずっと練り上げた形で進めていってこれたということでは、この適正化協議会も、昭和55年度以前につきましては、確かに協議会をずっと進めてきたところではあったんですが、それを答申した形で昨年度、久しぶりに11年ぶりに再会したこの会で、市長部局の方も参加してもらったんですけれども、今申し上げたように、この協議会の答申を受けて、市長部局とも協議を進めて決めていくという流れをとりましたものから、変わっております。よろしくお願ひします。

<p>泉会長</p>	<p>よろしいですか。その他に何かご質問ありませんでしょうか。 それでは、今日、色つきの資料を配られていると思います。ご覧ください。これを基に具体的に議論を進めていったらどうかと考えています。その黄色に塗っていただいているところの隣の列が26年度までは、伊万里小学校、牧島とずっといって、南波多が小中一貫校として残って、滝野も小中一貫校となっております。 次の一番右の列は、平成何年度と書いてございませんが、この現在ある小学校中学校のうち、規模適正化の対象として考える学校は、どこになるとお考えでしょうか。まず、そのところから、ご意見なりお考えをいただければと思っております。 いかがでしょうか。考えていただくには、先程の児童数生徒数の入学者数を書いた一覧表を参考にしていただいて、お考えいただければと思っております。各学級が適正化どうかは、9ページを見ていただかないと分からないと思っております。 私の方であまり結論を出せ出せと言っても進まないと思ひますし、こちらあたりで、どの学校が、規模適正化の対象になるか、その辺りをグループで話し合いをしていただければませんか。そして、その後、全体で話し合いをしてみましょう。今から10分程時間を取りますので、グループで伊万里市内の小学校のどこの学校を対象にするということをお考えいただければと思ひますが、よろしいでしょうか。9ページの表を見たり、先程の提案しました共通理解をした学校の規模の考え方とか、そういったことを考えていただき、どこが対象になるかとかを考えて、お話し合いをしてください。お願いします。</p>
<p>14:00～</p>	<p>グループによる話し合い。</p>
<p>泉会長</p>	<p>伊万里小学校と牧島小学校は1町に2校あるとか、山代東小と山代西小も山代町に2校というような問題、だいぶ前の答申では1町1校を原則とするとあつたから等いろんなご意見があると思ひます。牧島、大川内、山代西小学校を規模適正化の対象とするかしないかということについて、ご意見をお出してください。 グループでのご意見をお出してください。</p>
<p>B委員</p>	<p>まず話題に出たのが、波多津と波多津東小学校のことです。資料を見てみると、複式解消をしていくべきだろうと、波多津と波多津東も統合、校舎は波多津東小学校を使用するという意見が出ました。または、統合の考え方もありますが、黒川小学校と青嶺中学校を含めた一貫校という考え方もあるだろうということも出てきました。学校規模適正化ということだと、2つ目は、山代西小学校の件です。児童数を見ていくと1年越しに一桁の年があるので減少傾向にあることと1町に1校という基本的な考え方があるので、それにも引っかかる。すぐということではないけれど、近い将来、山代東小学校との統合を考えなければいけないのではないかとということです。3つ目には、大川小学校と松浦小学校です。人数的にはまでゆとりがあるが、校舎が老朽化していて耐震化の問題もあるので、建て替えの時期が迫っている。別々に建てるよりも一緒の方がよい。その場合に、小学校だけでなく中学校も併せて考えてはどうだろうかという意見も出てきました。</p>
<p>C委員</p>	<p>具体的な話ではなくて、第1回の論議の中身として、昨年度も含めたところで、市内すべての学校が対象であろうと、総合的なことをにどう考えていくのかということと頭を抱えていた。各校区、特に前回欠席だった青嶺中校区の方にはぜひ出席していただいて、全校区の各町民の方の実情等をお聞きしようという前回の宿題ではなかったかと思う。具体的に、自分のところの3校ともが規模適正化の対象であるという理解でありましたので、意見集約はどうしたらいいのかとこの間動いてきたつもりでしたので、投げかけの真意を測りかねるというのが3人の結論です。</p>
<p>D委員</p>	<p>前回欠席したので、ピンときていないが、意見が出たのは、全体を考えていかなければいけないとの思ひでいる。例えば、立花小学校と大川内小学校を一緒にすることも考えられるのではないかと。牧島小学校も。山代東と山代西小学校は、考えが両極端、端から端までなので形地的な問題がまだ大きく出てくるのではないかと思う。自分のいいように言えないが、滝野は一貫校にしていただき、あれもこれもというわけにはいかないだろうという思ひがしている。</p>

A委員	<p>例えば、波多津と波多津東を、山代東と山代西を1町1校という考え方で統合する場合には、1年生に歩いてこいとは言えない。条件としてスクールバスが出せるのであれば、1町1校を進めてもいいのではないかと話をしました。ただ、個人的な考え方で、昭和30年代に建てられた建物がいつになったら新しくなるのだろうか、教育の機会均等、環境の機会均等がいつになったらなるのだろうか、松浦にしても波多津にしても、あまりもかわいそうな現状がある。そのままにしておいてよいのか、財政上の問題があるからできないという気持ちは解らなくもないが、校舎の問題はこのまゝいつ解決できるのかと心配している。話題になったのは、1町1校という考え方をすれば、条件付きで波多津と山代は不可能ではない。特に波多津は、青嶺中と同じバスに乗れるかは別にして、小学校も条件付きで進めることもできるのではないかと話をした。</p>
E委員	<p>いままで出てきたご意見とほぼ一致するのかなと考えている。子どもの数の問題、校舎の老朽化、前回お聞きした多久の小中一貫の考え方あたりを入れ込んでいくと学校名が絞られてくるのではと考える。もう一つ、あと1回で結論をまとめるということがあるので、これまで出てきたことをどう次回までに、これとこれは先に残してまずこれをとといった形になるのかという気もしている。いずれにしても少し長い目で、子どもの数の問題や老朽化の問題、伊万里として小中一貫の考え方、多久の考え方をどこまでどう取り入れていくのかということ、しっかりこの場で確認して最後の会になるのかなという気がしている。</p>
F委員	<p>前回の議事録に伊万里市の方針を(とりあえずではあるが)出されている。1学年1学級20人程度、全校で120人程度の規模が現実的な学校規模と考えていると言っているので、その点を中心に考えてきた。波多津、山代を中心に意見を求めた。ただ、山代地区については、小中3校とも校舎が新しいのもったいないので、地域の方が規模的に見てどう受け止められるのか。波多津については、波多津東が新しく、波多津小はかなり厳しいと聞いている。手取り早く解決していこうとするならば、市の方針を、波多津をまず手付けたほうが、これはもう間違いないだろうという意見でした。議事録から見れば全体的に市の方針は出ているのかなと確認をしたところでした。</p>
泉会長	<p>グループによる話し合いをしていただいた。その中で考えることは、市内全体各学校の保護者や地域の住民の考え方等も聞く必要があるのではないかと意見がありました。これは、規模適正化という動きに対しては、その校区の皆さんは基本的には、学校としては残してほしいという希望が強いのではないかと。どんな小さい学校であっても残しておいてほしいというのが一般的な希望であると思う。これは私の考えです。しかし実際、学校を運営する教育行政の立場としては、財政や職員配置の問題、校舎維持の問題もある。小規模校については、統合して適正規模の学校として運営していきたいの考え方ではないのかと思う。そして、どこの学校となった時に、規模適正化の基準となる考え方を根本に、校舎の老朽化等を考えていくことになっていくのではないかと。伊万里小学校と牧島小学校は、1町2校、山代東小学校と山代西小学校も1町2校でありますので、よその町からすれば、それは1校にした方がよいとなるかもしれないが、地元の方の意見、希望を考えると、そのまま残しておいたほうがよいのではないかと。この規模適正化の考え方も、できるだけ現状維持でそのまま残しておきたいと思うが、教育行政上の問題から規模適正を考えざるを得ないと私は思う。そういうことを考えると、2グループから出ましたが、波多津小と波多津東小の規模適正化を一つの焦点として考えていくという進め方はどうなのでしょう。牧島小、大川内小、大川内小は立花小との統合との話も出ましたが、6学級学校として維持できそうなので、そのまま残しておく。その方が保護者や子どもの負担も少なく済むと思う。私たちの考え方としては、さしあたって波多津小と波多津東小に焦点を置いて業務を進めるという方向でいかなものなのでしょうか。提案をしたいと思えます。</p>
G委員	<p>この席に着いた時には、1町1校というルールはない。例えば、波多津の話が出ているが、保護者の立場で言うと、1年から1クラスのまま6年間いくとなると、いろんな子どもたちの世界もあるし、いろんな経験や体験をするにあたって、あまりにも少人数だと、中学校になってから小学校時に既に体験することをすること、若干遅れて体験する経験をするということになると思う。実際、その学校に通う保護者の意見、気持ちはどうなのだろうという話も出た。確かに、1町1校は理想かもしれない。地域の方からすれば、学校がなくなるということは寂しい。母校がなくなるという部分もある。一概にどうしようかと言われても、はい、それでいいですよという結論は出せない状況だ。実際に子どもが通う学校だとなると振出しに戻ってしまう。</p>

泉会長	有難うございました。1町1校の問題は、経過報告の中にあると思いますが、何回目かの答申のなかに、小学校は1町1校を原則とするという答申があった。かつては、こういう協議会の答申は絶対守らなければならないという考え方も昔あった。そういうことからすると、これは絶対守らなければいけないという原則も成り立つ。ところが、昨年、山代町の区長が1町1校は反対だと強く言われたことがあって、1町1校の考え方も実は曖昧になっている。それなら1町1校ではなくて、1公民館2校にしてはどうかと提案したが、それにしても山代東小と山代西小は当てはまらない。全く個人的な話ですけれど、1町1校はこのような課題がある。理想としては、そこに地域があれば、子どもがいれば、そこに学校があるということが一番理想だと思う。ところが、現実の課題として、予算や人事配置等の教育上の問題からどうしても規模適正化して統合してということだと思う。ですから、理想ではなくて現実の課題として捉えて、ではどうしようかというようなことを考えていくのではないかと、私としては考えているところです。
A委員	前回の多久の先生の話の中で、何回も地域に行って説明、説得をして統合してきた。そのあとも、統合してよかったという考え方がある。地域の人の気持ちはよくわかるが、いろんな状況を考えたときに統合しましょうと、ここで決まったらいいと思う。学校がこのままの老校舎ですと勉強させなければいけないだろうとか、先生が生徒より多いのが本当だろうか、とか考え方はいろいろある。
泉会長	いろいろご意見を出していただきました。協議会として一つの方向は出すべきだろうと思う。どの学校を規模適正化の対象として考えるかということの一つ結論を出す。それから、今日、決定しても永久的に拘束をもった答申として固く捉えると、いろんなことを考えなくてはいけないので難しい。一つの考え方として、たとえば、山代西小学校が7人に、H28には6人になるなど今後の児童の動きもありますので、私どもの協議会は結論を出す、次の協議会を持っていただいて、さらに今度のことについては、検討してほしいということをつけ加えるとか答申の中に入れるとか、あるいは、ご存じのように、滝野小中学校を考えたときに、地元の協議会の意見を参考としました。もし、波多津小と波多津東小学校の統合問題を考えるときには、波多津の住民の意見をお聞きしなくてはいけないだろう。さしあたっては、この協議会では、どの学校を規模適正化の協議対象として考えるか、波多津小学校と波多津東小学校を対象とするということではいかがでしょうか。牧島と大川内については、この協議会では考えないということです。
H委員	とりあえず波多津のことですね。
泉会長	波多津小と波多津東小学校を統合するという考え方で進める、答申を作成するというとです。その条件として、地域の方の意見を参考にするとか、数年後に児童生徒数の動きを見てこのような会を開催してもらうことを条件にするということです。
A委員	山代を外した意味は何か。
泉会長	複式にならずにすむから。ただ、7人か6人のときには、可能性がある。その時には、考えてもらわなければいけない。
A委員	波多津の人は、山代はなぜ対象にならないのかと言われる気持ちも考えられる。
泉会長	波多津の場合は、波多津東は既に複式になっているし、H28からは波多津小学校も複式になる可能性がある。この対象としては、波多津小と波多津東小学校でよいのではないかと、という考え方です。
E委員	これまでのいろんな声、ご意見をお聞きしたら、そうであろうと私も思います。ただ、先ほど申しましたように、小中一貫の考え方を取り入れるならば、波多津小と波多津東小学校を統合してどこに置くかという大きな問題がある。それをおいて、適正かどうかを考えるのか、2つの学校の老朽化を考えてどうするのか、ある程度思っただけで決めていくようなことになるので、先程、人数だけでなく老朽化や小中一貫と申し上げたが、いろんなご意見が皆さんにもおありでしょうから、まずは、これでということでは異論はない。
泉会長	私どもが、波多津小と波多津東小との統合を考えたときに、青嶺中学校との小中一貫校としての考え方はないのか。もし統合した場合に、統合校の設置の場所をどこにするかという問題が出てくると思う。このことについては、どうでしょうか。今まで答申としては、どこどこに設置するかは書いたことがない。どこに設置するかは、波多津小学校区と波多津東小学校区の中心点に置くというのが理想的な配置だろうけど、実際問題として、波多津東小は新しいのにという考え方もあるだろうし、それについては、地元の方と教育委員会の考え方でのよいのではないかと。この協議会の答申としては、そこまで踏み込まずに、波多津小学校と波多津東小学校を統合するという答申としてまとめておいて、どこどこに設置するとまではしないのではないかとと思うが、どうでしょうか。
H委員	それでいいんじゃないでしょうか。

泉会長	<p>これまで何回かの答申には、どこどこに設置するというはなかったと思う。小中一貫校となると黒川小学校の問題がある。3校の問題がある。この問題については、どうでしょうか。小中一貫校となると、小学校3校統合して、青嶺中との小中一貫校との考え方もあるが、黒川小学校はそれなりの規模で運営できるし、校舎も新しい。波多津小と波多津東小学校が統合して1校になった時の位置についても青嶺中学校とかなり遠い。小中一貫校の考え方は、今後の課題として、答申としては、2校の統合それまでで進めるという考え方ではないか。</p>
朝長学校教育課長	<p>いろんな意見を出して進めていただいております。一貫校を含めた新しい学校づくりを考えていただいているというところで、前回の協議会の折、地元、例えば小さな学校、特殊学校を抱える波多津の代表の方が欠席であるということで、滝野、南波多も同じように、地域の声がわかられる方にお話を聞きたいとのことでした。どこまでお話しただけかはわかりませんが、学校評議員でもある小杉館長にお話を伺えればと思います。</p>
1委員	<p>前回欠席していました。朝長課長より、次回の協議会で、波多津の教育について何か話題を提供してもらえないかとの依頼があったところです。教育委員会への要望を含めて、最近の地域住民の教育の動きについて述べさせていただきたい。一つ目は、市内全町で開催されました市長出前町づくり座談会、その時に、ある保護者から出た学校教育への質問事項について紹介したいと思います。波多津町では、この座談会が去る6月20日(土)波多津公民館講堂において、19時から地域住民150名の参加で開催されました。その質問の内容は、波多津東小はこのままずっと複式の学習で子どもたちが夢や希望を持って学校教育で学ぶことができるだろうかという不安の声の内容でありました。波多津東小学校は、完全複式学級のために先生数が極端に少なくなり、大変ご多忙な様子で、出張や年休が重なると平常の授業にご苦労されていると聞いています。具体的にどのようにしたら良いのかということで、自分にはよくわからないが、考えられる一例として、近隣の中学校から国語や数学をはじめとして、英語や音楽、美術の先生の応援があったり、1名加配があったら先生方が余裕をもって子どもの教育にあたっていただけるのではないかと、そうした環境づくりをお願いしたいという要望でありました。ところで、同じ複式学級のある滝野小学校との比較してみると、同じへき地小学校であるということは共通しているが、異なるところは、滝野小学校は中学校と同じ敷地内にある隣接の学校で、波多津東小学校は独立した学校である。滝野小学校と波多津小学校はともに複式学級の加配が1名あるが、それぞれの学校の授業形態を見てみると、滝野小学校は、表向きは複式であっても、国語、算数の授業については全学年、学年別の授業で進めてあります。また、社会と理科の授業についても5・6年は学年別の授業です。波多津東小学校は、1と2年、3と4年、5と6年の授業1人の先生で2学年同時授業の完全複式で授業しているところです。滝野小学校の場合、同一敷地内にある滝野中学校から、国語・数学・理科・社会・英語・体育6名の各教科の先生が小学校の授業に入り込んでいます。また、滝野小中学校は校長1名だが、教頭・教務主任は小中それぞれに在るため、時間的ゆとりから校務分掌等調整しながら、小学校は教頭・教務主任が多くの時間授業に入り応援しているわけです。従って、滝野小学校は、複式学校とは言っても授業は単学年で進められているといっても過言ではないと思います。波多津東小学校は外部からの応援の先生は0です。これでも、子どもの学力に差が出てくることに懸念されます。教育は、学級経営や教科指導等教師力の向上こそが鍵を握っているとは思いますが、教師集団の力も見逃すことはできないと考えています。</p> <p>話は変わりまして、前回のこの協議会で講話があった、多久市教育委員会の資料によると、多久市は、今年度4月より7小学校と3中学校を3つの学校に再編して実施する一貫教育をスタートされたわけですが、そのきっかけは当時、市内2つの小学校で複式学級があったので、それを解消することだったと中川教育長が述べてありました。</p> <p>また、多久市においては、小学校1年から英語活動を導入、先生は市が講師を採用すること、電子黒板については今年度中に全学級に配置すること、統合にあたって、スクールバス17台の導入等、教育に対して相当な予算を投入されていることには、大変なご努力を感じると同時に、教育に対する熱い思いを感じたところです。市町村合併で大きな市となった唐津市においては、複式学級があるところが分校を除いて現在10校ありますが、県費負担教員と唐津市で独自に採用した7名の先生でカバーして唐津市では複式の学校は1校もなく、このことは唐津市の自慢と聞いているところです。波多津東小学校へ県費職員のもう1名の派遣が無理であるならば、市の経費で講師を採用して、是非、波多津東小学校への温かい支援を切にお願いしたいと思います。同じ複式学級であれば、中学校が同一敷地にあるなしにかかわらず、均衡のとれた教育環境を提供することが大切であると考えます。教育の機会均等と教育水準の維持は義務教育の根幹にかかわることです。へき地はあっても教育にへき地はあってはならないと改めて感じているところです。この協議会には、このようなことは、あまりそぐわない意見とは思いますが、お許しをいただきたいと思っております。</p>

I委員	<p>2つ目は、波多津の教育を考える会の概要についてです。この会は、児童生徒の減少、校舎校舎老朽化等学校教育に係る諸問題について、これからの波多津の教育について意見交換をする場として、平成23年度に設立したところです。この考える会は、園長、校長、育友会長の学校関係者のほかに区長会等関係団体の会長16名で構成をしております。昨年度は、11月19日に開催したところです。内容を紹介しますと、はじめに、小中学校規模適正化協議会の報告を私がいたしました。2つ目には事例報告として波多津小学校岡本校長より、唐津市の学校規模適正化協議会の動きと唐津市立七山小中学校の一貫教育の取り組みについて報告がありました。3つ目に近況報告として青嶺中学校池田校長より波多津中学校と黒川中学校との統合13年目の現状と課題ということで報告があり、最後に朝長学校教育課長より、波多津の教育への期待と題して講話がありこの会を閉じたところです。</p> <p>話しは変わりますが、波多津小学校の課題は児童の減少と校舎の老朽化です。校舎の新築のめどは全くたっていないところです。現在、児童数が66名ですが、平成30年にはマイナス10名の55名になります。3年後の平成28年には、2年生と3年生が複式に入り、その後は、継続することが予測されているところです。一方、波多津東小学校は、現在児童数32名ですが、平成30年度までは、ほぼ現状維持で推移し、複式学級が継続されることが予測されていて、複式学級に対する不安が保護者の中にあります。このような状況のなかで、学校の統合や小中一貫教育等について正式な場で議論したことはありませんが、育友会委員や地域住民からはいろいろな意見が聞こえてきます。まずは、波多津小学校と波多津東小学校を統合した方がよいのではないかという意見です。波多津東小学校は校舎も新しいので、波多津東小学校へ統合したらどうだろうか。しかしそうすると通学距離が広がるのでスクールバスの運行が必要になるのではないかという考え方です。この意見とは別に、将来のことを考えていっそのこと青嶺中へ、黒川小・波多津小・波多津小学校を統合再編し、一貫教育をスタートさせたらどうだろうかという意見もあります。このことも両町の意見が合致してこそ成立するものだと思います。このたび新しくできた唐津市立高峰中学校のように、近隣の小中学校がすべて加わるのではなく了解のできた小中学校が変則的に統合し一貫教育を進めることもあると思います。この高峰中学校は、唐津第四中学校と竹木場小学校、切木中学校と大良中学校が統合しました。切木小学校と大良小学校は統合に加わっていません。ご承知のように、伊万里市は面積も広くて学校規模もそれぞれ異なりますので、多久市のように画一的に統合再編することは大変難しいと思っております。最後に、私個人の意見としましては、この協議会において、早急に伊万里市としての学校規模適正化の全体構想を示していただいて、できることからその方向で協議に入るということが急務であろうと思います。</p>
泉会長	<p>有難うございました。内容的にいろいろな問題がありましたので私の方でまとめることはできませんが、お分かりいただいたと思います。地元の協議会でいろんな議論を進めてくださっているようです。ただ今のお話でご意見なりご質問はありませんか。(意見等なし) よろしいでしょうか。小杉先生の貴重なご意見等ご教授いただいたところです。ほかに計画ありますか。これでよろしいですか。</p>
朝長学校教育課長	<p>前回の協議会での黒川さんの意見や、東陵中、大川、松浦を含めて審議の方向性がまだ決まっておりませんでしたので、いろんな意見を聴いてからということでありましたので、小杉館長にはいろんな意見等を話していただいていたよかったです。</p>
森教育長	<p>小杉館長から貴重なご意見をいただきましたので、それに一言二言付け加えさせていただきます。先程、ご紹介ありましたように市長町づくり座談会で先程のような話が保護者からありまして、私もその場に参加していましたので、今、お話があったことについてはよく分かっているつもりです。今のお話の中で、滝野の場合と波多津東小学校の場合の併設の小中学校と離れている小中学校の関係で、小学校へ中学校の先生が出向いての授業への支援が、波多津東は滝野に比べてできていないというご紹介でした。確かに、そのとおりです。そこで一つだけ付け加えておきたいのが、波多津東小学校の場合は全学年全教科が複式ではありません。学校の中で、教頭、教務主任等が精一杯複式をしない状況をつくろうということで、たとえば、1・2年生の国語と算数は学年別に行っております。3・4年生の理科は学年別に行っております。5・6年生の理科も学年別で行っております。これには教頭、教務主任等が出向いて工夫しながらやっておりますが、努力はしているけれども、滝野のように中学校の支援が難しい状況にありますから今のような状況、児童の環境が異なっているということが一つです。</p>

森教育長	<p>それから、複式は、先程申し上げましたように、教職員の定数が限られていて学級数で配当されますので、国としては1年生を含めば8名までは1クラス、1年生を除けば16名というようにクラス数が決まりますから、クラス数に応じて教員の配当がなっていますので、これは全国的な流れとしてそういう形でなっておりますので、全国的に見た場合、波多津東だけがこうだということではないということ、滝野は幸いに小中併設校でそういう形で非常に努力をされて、子どもたちが1学年で授業を受けられる状態ができています。それから、波多津の場合に先生方が複式が始まるということで、数年前から複式学級の授業のあり方等については、先進校視察や研究を重ねて、複式の良い効果のある授業のあり方、2学年が一緒になった授業の立て方等様々な努力をしておられるし、そういう中での取り組みをされています。そういうことがあったとしても確かに、1学年が1人の先生からが一番よいと思いますので、今、波多津東小学校の場合には、教職員定数プラス1名をお願いをしております。先程お話がありましたように、もっと加配が頂けるように委員会としても努力をしたいと思いますし、例えば、多久の場合でしたら、過疎地域自立促進特別措置法等で財政的な面で伊万里よりは随分恵まれております。唐津の場合も合併債等で恵まれております。伊万里は何もない、財政的に厳しい状況ですので、先程話された多久のように、英語活動に市の講師を雇ってあること、電子黒板のこと、唐津の市単独の講師とか様々な財政的な支援をしていることについては、本当に素晴らしいことでありますし、是非、伊万里市でもそのような形を少しでも描いていければという思いは精一杯あります。現実としてなかなか厳しい状況がありますので、できることから努力を重ねていきたい、要望していかなければいけないと思っています。先程、話があった中に、座談会に参加させてもらいましたので、保護者の意見もよく心に感じました。</p>
泉会長	<p>有難うございました。学校教育の在り方等に論点が進んだようですので、元に戻させていただけます。この協議会としては、当面の課題として波多津小と波多津東小の統合を考える。その時に、数年後、年限はわかりませんが、またこのような会をしていただく等条件として入れるということで、今後複式にならないだろう学校については、協議会の対象として考えないというような結論でよろしいでしょうか。そのようにしたいと思いますが、何かほかにご意見ございませんか。一応、今日はこれくらいしておきまして、次回は後1回です。</p> <p>学校の配置の問題につきまして、教育委員会の考え方は、みなさんにお配りした資料の中に学校配置についての考え方についてすべて書いてありますので、ご確認いただければ有難いと思います。さしあたって今日はこれくらいで終わりたいと思いますが、ほかにも教育委員会から何かありませんか。よろしいですか。</p>
朝長学校教育課長	<p>ありがとうございます。昨年度の付帯事項から今の状況の中で、南波多小中学校の問題と滝野小中学校の問題を解決してもらい協議会としての意向を中間答申として出させていただいております。それを受けまして、教育委員会、議会等で話が進んでいて、来年度にでもという話であります。同じように、先程小杉館長さんから話があった中に、この協議会で現実的な課題として捉えて、話を進めてそれを教育委員会、市に打診していくべきものではないかということがあったので、是非、そういうことを考えていただきながら、波多津小と波多津東小の統合が第2ステージ、第3ステージとして、また一貫校としての学校づくりを目指すところまでの検討をしていただきましたので、そのほかの学校についても、今後は、この協議会の中で進めていただければと思います。</p> <p>今日の段階で決まったことにつきましては、最終の答申として、諮問1についての答申と言うことで継続して審議していただきたいと思っております。事務局としては、委員のみなさまに役職がらみで検討することがあれば、意見をもち寄って、会議に出していただければと思う。</p>
泉会長	<p>協議会の案として、滝野小中学校の答申をいたしました。答申はしたものの私の頭の中には、ちょっとした不安が残りました。滝野中学校の生徒数が平成35年には、4名になってしまいます。この小人数で小中一貫校が成り立つのだろうかという個人的には不安になります。いろいろなことをお考えいただいて、次の会議に出していただければ有難いと思う。これで終わりたいと思います。その他を教育委員会でお願いたします。</p>
朝長学校教育課長	<p>次回は、案ですが、平成26年1月24日(金)13時30分から大会議室にて開催したいと思っております。前回も市連Pの九州大会で変更したこともありますので、今の時点で出席できない状況があれば変更しますのでご検討ください。よろしいでしょうか。委員の皆さま、次回のご出席をお願いいたします。会長、副会長、今日の進行有難うございました。閉会を原教育部長からご挨拶申し上げます。</p>
原部長	<p>今日は、委員の皆さんにご熱心に、また長時間にわたり貴重な意見をいただき有難うございました。これをもちまして第2回小中学校規模適正化協議会を閉会いたします。みなさん有難うございました。</p>